

## 第 42 回彗星会議 研究発表 (要旨)

6 月 2 日(土)

中村 彰正・・・「2011 年の彗星発見・観測のまとめ」

(要旨) 2011 年に発見、または検出された彗星を一覧表で紹介し、発見事情や軌道要素の特徴について概説する。2011 年に符号が振られた彗星は発見 46 個(うち誤報 1 個)検出 4 個であった。また、スペースからの発見が多数あったが、符号が振られた彗星は 3 個に留まった。また、2011 年に行なわれた精測観測について、天文台毎、彗星毎のランキングを出し最近の傾向について解説する。

吉田 誠一・・・「2011 年の主な彗星の光度変化」

(要旨) 2011 年度に観測された主な彗星について、明るくなった彗星、突発的な変化を見せた彗星、特異な光度変化を見せた彗星などを紹介する。

佐藤 英貴・・・「リモート望遠鏡を用いた彗星観測」

(要旨) リモート望遠鏡を使用して 3 年にわたり彗星観測を行ってきたなかで得られた成果などについて。

蓮尾 隆一・・・「クロイツ群に思う」

(要旨) クロイツ群は時折現れて、細くて真っ直ぐに伸びた尾を見せる。頭部は常に小さく、決して明るくない。今回の Lovejoy 彗星もそうだった。本当に過去のクロイツ群もそうだったのか、絵や写真を集めてみた。すべてが細く真っ直ぐな尾を示していた。何故だろう? どうして、ベネットやウェストやマックノートのようにならないのだろうか? 答えはクロイツ群の小さな近日点距離にあることは直感的に分かりますが、何とか、計算できちんと示したいと思っています。この原稿を書いている時点では未だ出来ていませんが。

6 月 3 日(日)

Dr.Geraint Jones & Yudish Ramanjooloo (University College London)

(ジョーンズ博士とラマンジョロー氏)

タイトル・・・「Ion Tail Observations : What they can tell us about solar wind conditions」

(イオンの尾の観測、彼らは太陽風の状況について私達に何を語りかけているのか)

田中 政明・・・「フクシマ(福島)からの報告」